



唐崎松 (からさわのまつ) 兼六園の中で最も枝ぶりが見事な松である。13代藩主・斉泰が琵琶湖畔の唐崎から種子を取りよせて美生から育てた黒松である。11月1日に雪用り作業を始める。北陸に冬の訪れを告げる風物詩となっている。



兼六園の花井の数は300枚をはるかに超えるのが、一番の特徴。



曲水

園内を流れる曲水の瀬かな水は、1631年の寛永の大火の翌年、3代藩主・利景の命により町人松屋兵衛助が、城の「防火用水」としてつくった辰巳用水を利用している。兩岸には桜が植えられ、4月の開花時には杜若の若緑とともに美しい景観を奏しめる。

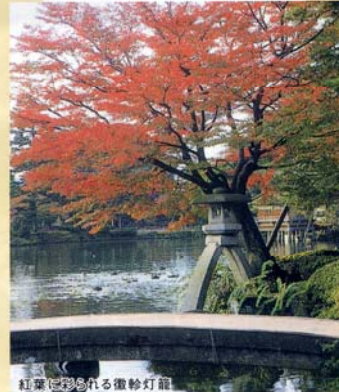
石川門 石川門は三十間長屋とともに旧金沢城の数少ない遺構の一つである。建立されたのは1788（天明8）年で、国の重要文化財に指定されている。白く輝いている屋根は鉛瓦である。



文化財指定庭園 特別名勝



兼六園



紅葉に彩られる燈籠

石川県金沢城・兼六園管理事務所
金沢市丸の内1番1号
TEL (076) 234-3800
FAX (076) 234-5292
<http://www.pref.ishikawa.jp/siro-niwa/>



夕顔亭

園内で最も古い建物で、1774(安永3)年に建てられた茶室である。茶室の次の間の袖壁に夕顔(蔓草)の透があるので夕顔亭という亭名がつけられている。

時雨亭 (しぐれたい)

5代藩主・綱紀がはじめて本園を作庭した頃からあった建物で、蓬池御亭と呼ばれていた。それは6代藩主・吉徳によって建て替えられたが、藩政後期には時雨亭とも呼ばれ、今の噴水の前にあった。明治のはじめに取り壊されたが2000(平成12)年3月にこの地に再現させたものである。



花見橋

花見橋から眺める花は見事である。桜、ツツジやカキツバタが花をつける時期が特に美しい。

噴水

この噴水は上にある霧ヶ池を水源としており、自然の水圧であがっている。通常、水の高さは3.5メートルで、霧ヶ池の水位の変化によって変わる。1861(文久元)年、金沢城二の丸の居間先に噴水があがっているが、兼六園の噴水はその試作といわれている。日本最古の噴水である。



雁行橋 (がんこうばし)

11枚の赤戸室石を使って雁が列をなして飛んでいる姿に作られているので雁行橋と呼んでいる。また、一枚一枚の石が亀甲の形をしているので別名を亀甲橋ともいう。



根上松

明治記念之標

梅林